

「能登地域における ICT インフラの活用に関する調査検討会」
第 1 回会合（議事要旨）

1. 日時：平成 20 年 4 月 24 日（木）13:00～15:00

2. 開催場所：KKR ホテル金沢 3F 孔雀の間

3. 出席者

(1) 構成員（敬称略）

澤 信俊(座長)、金平 勲、竹内 与志浩(亀井 公顯 代理)、西村 聡(早田 豪 代理)、巽 一郎、寺尾 隆之、中西 悦子、小幡 紀喜(中村 宗幹 代理)、中山 由紀夫、奈良 周治、坂東 裕、日名田 正之、加賀 忠夫(廣瀬 康雄 代理)、松島 英章、和布浦 将司、安原 俊克、吉間 篤

(2) 総務省 北陸総合通信局

福本 謙二(北陸総合通信局長)、河野 隆宏(情報通信部長)、
山越 貴(電気通信事業課長)、長岡 正明(電気通信事業課長補佐)

4. 配布資料

資料 1-1 調査検討会開催要綱

資料 1-2 調査検討会の進め方について

資料 1-3 ワーキンググループの設置について（案）

資料 1-4 地域住民の視点からの ICT インフラの有効な活用方法についての調査の実施(案)

資料 1-5 能登半島 ICT 利活用セミナーの開催について

資料 1-6 奥能登地域の状況について

資料 1-7 富山県ケーブルテレビ協議会の概要

資料 1-8 調査の実施について(依頼)

資料 1-9 今後のスケジュール・調査依頼等

5. 議事概要

(1) 開会

(2) 福本北陸総合通信局長 挨拶

(3) 配付資料確認

(4) 調査検討会の開催要綱の確認

(北陸総合通信局 電気通信事業課 長岡課長補佐から資料 1-1 に基づきポイントの説明があった。)

本調査検討会では、能登地域における地域事情を踏まえ、他の地域における ICT インフラの活用事例、実証実験等を通じて、関係者間で ICT インフラの有用性について共通認識を得るとともに、能登地域にふさわしい ICT インフラの利活用方策を検討することを目的とする。

調査検討事項は、次の 4 点。

① 能登地域における ICT インフラ整備・サービス展開の状況

- ② 他の地域における ICT インフラの活用事例
- ③ 能登地域の暮らしや産業において期待される ICT インフラの利活用方法・実現に当たっての課題
- ④ ICT インフラの利活用推進に向けた方策

座長を、検討会構成員の互選により定める。

検討会は、必要に応じてワーキンググループを置くことができる。

検討会の開催期間は平成 21 年の 3 月までを目途とする。

(出席者全員が簡単な自己紹介)

(開催要項の確認)

異議なしと構成員からあった。

(5) 座長の選出

(金沢星稜大学 澤教授が座長に決定した。)

(澤座長から座長選出にあたっての挨拶があった。)

(6) 議事

① 調査検討会の進め方について

(北陸総合通信局 河野情報通信部長から資料 1-2 に基づき提案・説明があった。)

② ワーキンググループの設置について

(北陸総合通信局 河野情報通信部長から資料 1-3 に基づき提案・説明があった。)

③ 地域住民の視点からの ICT インフラの有効な活用方法についての調査の実施について

(澤座長からスライド及び資料 1-4 に基づき提案・説明があった。)

④ 能登半島 ICT 利活用セミナーの開催について

(北陸総合通信局 山越電気通信事業課長から資料 1-5 に基づき提案・説明があった。)

⑤ 奥能登地域の状況について

(日本工営(株) 小石 龍太郎氏から資料 1-6 について説明を頂いた。)

⑥ 富山県ケーブルテレビ協議会の概要について

(富山県ケーブルテレビ協議会 金岡 潤一氏から資料 1-7 について説明があった。)

⑦ 調査の実施について

(北陸総合通信局 山越電気通信事業課長から資料 1-8 に基づき提案・説明があった。)

⑧ その他

(澤座長)

能登地域におけるICTの活用については、石川県及び石川県産業創出支援機構でも検討していると聞いている。その取り組みについて、石川県産業創出機構の金平氏からお聞かせ願いたい。

(石川県産業創出支援機構 金平構成員)

昨年の能登半島地震の後、平成19年度からの5年間、石川県と国が連携して能登半島の支援を行うことになった。実施主体は石川県産業創出支援機構となっており、基本的には能登が産業を含めて元気になるような施策をやっていこうというものである。できれば、本検討会の結果をタイアップしていきたいので、良いアイデアをいただければと思っている。

(北陸総合通信局 山越電気通信事業課長から資料1-9に基づき説明があった。)

閉会